



がんが ぬくしきょういく
みんなで考える福祉教育
ちいさなぬくししんぶん
地域福祉新聞

今年の表紙

ボランティア
チャレンジスクール(社協事業)
”親子で学ぶ もうどう犬のおしごと”

野木町社会福祉協議会では、町内の小・中学校7校を「学童・生徒のボランティア活動普及事業」協力校に指定し、各校の福祉教育担当の先生の方と社会福祉協議会、ボランティアの方々と交えて年3回連絡会議を開催しています。

ここでは、令和5年度に行われた各校の福祉に関する事業、福祉教育に関わるボランティアの方々の様子などを掲載いたしました。

友沼小学校では、4年生が「総合的な学習の時間」に福祉の学習をしました。ボランティアの方々にご協力いただき、アイマスク体験や車いす体験、手話・点字体験など、貴重な体験をすることができました。体験を通して、ハンディキャップのある方がおかれている状況や、障がいに対する理解を深めました。人権週間は「よさを見つけよう」をテーマに取り組み、人権集会では自分のよさや友達のよさをたくさん見つけました。また、1年生は、野木町更正保護女性の会の方とチューリップの球根植えを行いました。

チューリップ球根植え



1ねん てらさわ ことこ

きゅうこんをうえるむきがわかりました。つちをいれるのがたいへんだったけど、たのしくできました。なにいろがさくのかたのしみです。

1ねん たに しんのすけ

きゅうこんのとんがっているところを上にしてうえるのがわかりました。きゅうこんうえは、たのしかったです。はやくめがでてほしいです。

1ねん しまだ いろは

きゅうこんがたまねぎのかたちになっていました。たくさんおせわして、げんきにそだってほしいです。かわいいチューリップがさいてほしいです。

4年福祉体験

あおき 藍加

(アイマスク体験)

人に付き添ってもらっていたのに、怖かったです。一人ではとても怖くて、動けなかったと思います。目が見えないというだけで、とても不安な気持ちになるんだなと思いました。

おない 亜衣

(車いす体験)

段差がある所では、一人では動けないことがわかりました。また、車いすを後ろ向きに動かすとよいことがわかりました。車いすを押す人は、声を掛けることが大切だと思いました。

たむら 夢珠

(点字体験)

点字は、目の見えない人のためにあるとわかりました。点字を打つのも難しかったけれど、点字を読む方がより難しかったです。身の回りに点字がたくさんあることも知りました。

もりや 翔晴

(手話体験)

手話は、目の見えない人やしゃべることができない人のためにあると知りました。自分の名前を表す手話を教えてもらって、とてもうれしかったです。手話で伝えるときは、話しながら動作すると、より伝わりやすいこともわかりました。



人権集会

1年 関根 永久

6年生が声を掛けてくれたから、グループを作ることができました。みんなのいいところを知ることができてよかったです。はじめての友達だったけど、やさしくしてもらいました。

2年 平澤 咲江

名刺交かんでみんなのことをいっぱい知ることができてよかったです。これからも友達のいいところを見つけようと思いました。

3年 松田 寧々

みんなが楽しく生きていけることが一番。一人一人が自分を大切にしているから、相手に対して傷つく言葉を言わずに、気持ちを考えて生活していきたいと思いました。

4年 秋庭 美夢

いろいろな学年の人の特徴やいいところがわかりました。みんなに、自分のいいところを知ってもらいました。まだ、やっていない人とも交流したいです。

5年 深井 茉莉愛

普段話さない子たちとみんなで集まって名刺交換することができました。みんなのいいところが分かったので、前よりも仲良くなれたと思います。

6年 岡田 望伶

友達のよさをたくさん見つけることができました。集会でいろんな人と交流することができました。普段あまり関わらない人とも話すことができました。



野木 小学校

野木小学校では、4年生の総合的な学習の時間に「福祉」について学習しています。ハンディキャップ体験を通して「ひとにやさしい」とはどのようなことなのか、自分にできることはどんなことかなど、考えを深めることができました。

福祉体験

アイマスク体験



階段の上り下りがとても怖かったけど、サポートしてくれる人がいて安心しました。

かわしま ありな
川島 愛理奈

目が見えない人の大変さを知り、いろいろなことを学べました。

せき こうたろう
関 広太郎

見え方や感じ方が違うことに気がきました。目が見えない方に会ったらサポートしてみたいです。

いとう あかり
伊藤 朱璃

目が見えない人に大切なことは、周りの人の声かけだと思いました。

さいとう ひなた
齊藤 日向

目が見えないのは大変だったので、これからは声をかけてサポートしていきたいです。

そのべ 園部
らみい

目が見えない人の気持ちがよく分かりました。困っていたら声をかけていきたいです。

いなば こはる
稲葉 心春

目が見えない人の気持ちや道具の名前、使い方を知ることができました。

すとう ゆうな
須藤 祐奈

階段を下りるときに落ちそうになり、目が見えない人の日常を感じることができました。

やだ かえり
矢田 果楓

車いす体験



歩けなくても、車椅子があれば自由に動けてすごいと思いました。

みうら けいじ
三浦 慶二

後ろで押してくれる人がしっかり押してくれたので、安心して乗れました。

けづか ひろき
毛塚 拓輝

ちょっとした段差も車いすだと大変でした。また、押す方も段差があると大変なことが分かりました。

たまち なおき
玉地 治樹

後ろで押す人がいろいろ気にかけてくれたので、落ち着いて安心して乗れました。

みちこし はる
道越 陽

家族の誰かが、足が不自由になったら介護できるから、サポートの仕方が分かって良かったです。

さいとう あきと
斎藤 瑛斗

今回体験できたことで、もしも車いすになっても安心して使えるかなと思いました。

まきの りせ
牧野 葵星

車いすを押すとき、どこにもぶつからないように気を付けて押すことが大切だと思いました。

よしぬま こうた
吉沼 幸大

高齢者疑似体験



体験を通して、体を動かすのがとても大変ということが分かりました。

まくち ひまり
菊池 陽葵

僕たちが普通にやっていることも、高齢者の方にとっては大変なことが分かりました。

かざま よしや
風間 義也

視界が悪いのは大変だったので、困っているお年寄りの方がいたら助けてあげたいです。

きむら しゅう
木村 愁

高齢者の見ている世界や体の動かし方を体験し、大変さを感じました。

ちく あおい
知久 碧彩

体を動かすのがとても大変で、困っていたら手伝ったり優しくしたりしたいと思いました。

かたやなぎ ゆいと
片柳 結斗

体験を通して大変なことが分かったので、高齢者の方が困っていたらサポートをしたいです。

くりた りお
栗田 湊夢

体を動かすことが大変でびっくりしたので、おばあちゃんの手伝いをしたいです。

のぐち そうま
野口 蒼真

こもれびの舎の訪問を通して



色々な人に合わせて、たくさんの道具があることが分かりました。

かとう きき
加藤 咲希

手すりがあると歩きやすいなど、たくさんのバリアフリーを見つけることができました。

こじま えりな
小嶋 恵利那

高齢者の方の食事やお風呂などの大変さが分かり、できることをやっていきたいと思いました。

かわた ふうか
川田 楓花

車いすの人が入れるお風呂を初めて見ました。いろいろな工夫があってすごいと思いました。

ほりこし たけと
堀越 義翔

佐川野小学校では、今年度、人権週間に合わせ、社会福祉協議会ボランティアの方々にご協力いただいて福祉体験を行いました。体験を通して、障害がある方々の苦勞を知り、困っている方への手助けの方法やコミュニケーションの方法を学びました。児童は、相手の気持ちになって手助けをすることの大切さを実感することができました。

12/1 (月) 人権集会「福祉体験」

1・2年 手話体験



1年 いわさき ゆうま

しゅわの先生は、手だけでおはなしができてすごいとおもいました。じぶんのなまえをゆびでやってみておもしろかったです。もっといろいろなことばをしりたいです。

1年 こぼり かれん

ゆびで、おはなしができることをはじめてしました。とくに「いわ」というしゅわは、ごつごつしていてもおもしろいとおもいました。手でおはなしできたらいいとおもいます。

2年 白岩 優楽

教えてもらった手話で、自分の名前をしょうかいしました。耳が聞こえなくても、手でお話できるのは、すごいと思います。もっといろいろな手話をおぼえて、たくさん話したいです。

2年 柿沼 光里

手話は、手遊びみたいなのかと思っていただけ、耳が不自由な人とも話せるすごいものだと分かりました。聞こえないと大へんだけれど、わたしもお話ができるようになってみたいです。

3年 知久 昇陽

目の不自由な人は手や耳を生かして、きけんが分かるなんてすごいと思いました。点字のことをもっと知って、目の不自由な人と出会ったら手助けができるようになりたいです。

3年 手塚 大翔

目の不自由な方は、だれに言っているのか分からないので、かたをとんとんしてから話すのが大切なんだと分かりました。おぼえるのは大変だけれど、点字をもっと知りたいです。

4年 井上 琉碧

点字は右から打つのを初めて知りました。針のような道具で打った点の組み合わせで文字が分かるなんてすごいです。これから身の回りで使われている点字を探して、読んでみたいです。

4年 岩崎 創真

目の不自由な人でもさわって分かる文字が「点字」なんだと初めて知りました。自分達は目が見えるけれど、見えない人にも、やさしく分かりやすい案内や話し方をしたいと思います。

3・4年 点字体験



5・6年 車いす体験



5年 清野 志音

車いすの介助はゆっくり慎重に押さないと、周りのものにぶつかったり、乗っている人がこわい思いをしたりしてしまうので、難しいと感じました。自分で乗ってみて、曲がるのがとても大変だったので、車いすの方の苦勞が分かりました。

5年 前澤 幸助

車いすの介助を体験して、乗っている人のことを考えたスピードや声かけが大切だと分かりました。もし、周りに車いすの人がいたら進んで手伝いをしたり、場所をゆずったりしたいです。

6年 金澤 蒼

車いすに座っている人に気持ちよく感じてもらえるように動かさなければならぬことを学びました。もし、身近な人が車いすを使うことになったり、町で見かけたりした時には、学んだことを生かしたいです。

6年 鈴木 涼音

車いすはタイヤがついているので楽に押すことができるものだと思っていたけれど、力と技術と思いやりが必要なんだと分かりました。乗る方も急な動きは怖い思いをしてしまうので、もし困っている人がいたら、気を付けて介助をしたいです。

南赤塚 小学校

南赤塚小学校では、4年生の総合的な学習の時間「みんなに優しい街づくり」の学習で、本やパソコン、インタビューなどで、福祉に関する調べ学習をしたり、車いす、アイマスク体験に取り組んだりしています。他にも、人権週間を中心に、全学年で福祉・人権に関する学習に取り組んでいます。

人権週間



今年度は、人権集会で「ズッコケ三人組のいじめをなくす作戦」というDVDを視聴しました。登場人物たちは、クラスで起こってしまったいじめについてよく考え、話し合います。いじめが起こった原因、加害者が増えていく様子、傍観者という立場についてなど、いじめを様々な側面から捉え、解決に向けて、行動していくお話です。子どもたちは、DVDを観たり、クラスで話し合ったりしたことを通して思ったこと、感じたことをワークシートに書き込みました。子どもたちは、互いの個性を尊重し、自分にできることは何かと真剣に考えていました。



いわれているほうのきもちや、じぶんがいわれたらどんなきもちになるかかんがえれば、あかるくてたのしいクラスになるとおもいました。

1年 宇津木 来虹

もしも、いじめられている子を見つけたら、自分も何かその子にしてあげられることを、ちゃんと考えようと思いました。

2年 齊藤 成有

いじめのないクラスや学校にするために、「みんなの意見をみとめ合う。」「見て見ぬふりをしない。」「いじめられているところを見たら助ける。」を実行していきたい。

3年 鈴木 莉央

強い心=ゆう気をもってはっきり思っている事を言うことをしていきたいと思いました。

3年 岡村 樹

いじめは、友達が苦手としているところが気になって起こることが多いと思うので、良いところを見つけ合い、ほめあうことがいいと思います。そして、自分がされていやだなとおもうことは、友達にとってもしいやなことなので、ぜったいにやってはいけないし、いじめを見た人も助けに行くことが大切だと思いました。

4年 長谷川 結生

私が、人権強調週間で学んだことは、人の意見をしっかり聞いたり、おたがいのいいところを見つけたりすることが大切だということです。DVDを見て、ノルウェーの子をきっかけに、いじめがへるといいなと思いました。いじめられている人も大声で言うのがいいとわかりました。「①大声で『嫌だ。』『やめて。』と言う。②しらんぷりをしない。③近くの人が助ける。④先生や親に相談する。⑤学級のみんまで話し合う。」をみんなで共有し、実行していきたいです。

5年 落合 心菜

見て見ぬふりをするのではなく、積極的に助ければ、いじめは、改善されると思います。自分がされていやなことは、他人にしないように気をつけたいです。何かを言う前に、自分が言われていやなことは、言わないように心がけたいです。

6年 齋藤 結

総合的な学習の時間



認知症サポーター養成講座

僕は、認知症サポーター養成講座の話を聞いて、認知症についてや、その人にどうやって接したらよいかがよく分かりました。そして、その講座を受けた時から認知症サポーターになれるそうなので、これからサポーターとして認知症の人が困っていたら迷わずに声を優しくかけて助けてあげたいと思います。

4年 舘野 凌典

認知症サポーター養成講座で、認知症のことを初めて知りました。それまで、どう助ければいいのかなど接し方も分かりませんでした。でも、今日の詳しく分かりやすいお話を聞いて、認知症のことがよく理解できました。これからは、認知症の方を見かけたら、助けたり支えたりしたいと思います。

4年 眞瀬 莉吉

僕は、車いす体験をする前は自転車のような感覚だと思っていました。でも体験してみると、自転車の何倍も動かすことが大変でこれを歩道で使っている人がいると心配がたまらなくなりました。僕は、この体験を通して足の不自由な人の気持ちがよく分かったので、車いすを使っている人を見かけたら助けてあげたいです。

4年 岡安 司

僕は、車いすは楽そうだなと思っていました。しかし、自分が骨折をして車いすを使ってみると、とても辛くて大変な気持ちになりました。その経験から、車いすを使っている人を見かけたら、優しく対応しようと思いました。

4年 望月 晴真



車いす体験



アイマスク体験

私は、アイマスク体験をして、こんなにも目が見えないということは大変なのだと思いました。私はその時、人にぶつかるなどいろいろな問題が起きたので、視覚障害者の方に出会ったらびっくりさせたり、不意に触ったりせず、優しく思いやりをもって接したいです。

4年 宇賀神 心来

私は、アイマスクをして歩いた時に、どこに何があるのか分からずとてもこわいと思いました。短い時間なのにこれだけこわかったので、目の不自由な方はもっとこわい思いをしたり、不安になったりしているのだらうなと思いました。これから、目の不自由な方に出会ったら、やさしくそっと声をかけたいです。

4年 白戸 梨花

新橋小学校では、地域の学校支援ボランティアの方々に協力を得て、体験学習を充実させています。4年生の総合的な学習の時間で、福祉について学習し、「心のバリアフリー」について考えています。ハンディキャップ体験では、野木町社会福祉協議会、手話サークル「虹の会」、点友会「のぎ」の皆さんやボランティアの方に来校していただき、お話を聞いたり、ふれ合ったり、実際に体験したりしながら、たくさんのことを学ぶことができました。

★総合『心のバリアフリー』★

★車椅子体験★

車いす体験では、段差や坂を車いすで上り下りしたり、自分で操作したりしました。体験からバリアフリーや介助について考えました。

(児童の感想)

- 車いすを押してみても、介助する大変さが分かりました。日ごろから乗っている人はもっと大変なんだと思いました。
- 車いすに初めて乗って、段差をのぼりおりしたとき、まるでジェットコースターに乗ったときぐらいこわかったです。介助側もむずかしかったので、いつもこのようなことをやっている人はすごいなと思いました。
- 車いすに乗ったときの目線は、ふだんの目線とぜんぜんちがうと知りました。しょう害のある人はつらい思いをすることがあるだろうと思いました。
- 相手のことを考えた手助けができるようになりたいです。



★手話・点字体験★

手話・点字体験では、ボランティアの方から、手話や点字の打ち方などを学びました。



(児童の感想)

- 自分の名前を手話で伝えられるようになったので、家でお母さんに教えたら「すごい」って言ってくれました。
- ボランティアの方に、目の不自由な方がいました。お話を聞いてどんなことが困るのかよく分かりました。打った点字を読んでもらえて、うれしくなりました。
- 手話も点字も、今日一日では使えるようにならないので、もっとたくさんを知って、できる手助けをしたいと思いました。

★アイマスク体験★

アイマスクをして廊下を歩き、視覚障がい体験をしました。

(児童の感想)

- 目が見えていないとこんなにこわいんだと分かりました。逆に、友達と一緒に歩いてもらったら、安心しました。声をかけてあげる大切さを実感しました。
- 目が不自由だと不便なこと・悩むこと、いろいろあると思います。みんなが笑顔でくらせるように助け合いたいです。



野木 中学校

野木中では、福祉委員会を中心に2か月に1度、アルミ缶・古紙回収を実施しています。今年度は野木中の各ご家庭だけではなく、地域の方々も回収に協力してくださり、昨年度の回収率を上回ることができました。収益金は学校生活や授業などで役立つものの購入に役立てさせていただこうと思います。また、募金活動やベルマーク回収、ペットボトルキャップ回収、気泡緩衝材の回収にも力を入れています。今後もいろいろな活動に取り組むことで、学校全体の福祉の心を育てていこうと思います。

『募金活動』

3年 なんば しょうへい 難波 将平

野木中学校では、毎年、社会に貢献するために募金活動を実施しています。募金活動により集まったお金は、貧困などで困っている人たちや、自然の緑を守ったり増やしたりするために使われます。今年度もたくさんの生徒や先生方のご協力によって、たくさんの募金が集まりました。募金がたくさん集まるほど、自分たちの気持ちが募金という形で社会のために使われる喜びと、募金活動のために呼びかけを一生懸命に行ってきたという満足感を得られます。これからも野木中では募金活動が行われていくかと思いますが、1円でも寄付してくれたら嬉しいです。その1円が社会の役に立ち、誰かを笑顔にできるかもしれません。野木町のあたたかさを豊かな世界のために。



ふくしのつどいのぎ2023 ボランティア活動

3年 あべ すずな 阿部 涼奈

野木中の福祉委員会は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、少しずつ地域の方との交流を増やしていくための取り組みを考えています。そんな中、私はこのボランティアの話を聞いたとき、ぜひ参加したいと思いました。

野木中からは3名が参加しました。活動内容は主に子どもコーナーのお手伝いです。子どもコーナーでは、射的や輪投げ、お菓子のつかみ取りがありました。私たちは射的コーナーの担当でした。おもちゃを並べたり、小さい子の補助をしたりしました。このボランティアを通して、地域の方々と交流し、野木町のあたたかさを改めて感じることができました。この素敵な経験を、これからの生活に生かしていきたいです。



『アルミ缶・古紙回収』

3年 かめだ しょうた 亀田 祥太

野木中学校では、福祉委員が2か月に1回の頻度でアルミ缶・古紙回収を実施しています。今年度から、2か月に1回の回収にしたことにより、学校全体の達成率を昨年度より向上することができました。他にも、ペットボトルキャップやベルマークの回収も実施しています。今年度は、多くの生徒と先生方、地域の方々のご協力により、昨年度より多く回収することができました。これらの活動で回収したものによって、学校生活に役立つものに換えたり、世界の子どもたちにワクチンを届けたりすることができます。今後もこれらの活動を通して、生徒1人1人の福祉に対する意識を高め、思いやり溢れる学校になるように貢献していきます。



人権講話

3年 おおはら あゆ 大原 愛結

野木中学校では、12月の人権週間でヤングケアラーについての講話が開かれました。講話では、人権擁護委員の方のお話とヤングケアラーの中学生を題材としたDVDを鑑賞しました。そこで私たちは、ヤングケアラーの問題や支援の必要性について学ぶことができました。中学生のうち17人に1人の割合でヤングケアラーであり、1学級につき、1~2人存在している可能性があります。ヤングケアラーは、家族を支えるために自分の時間やたくさんの夢を犠牲にしています。ヤングケアラーを支援するためには、彼らに寄り添い、優しく接することが大切だと思いました。今回の講話を通して学んだことを忘れずに、私たちにできることを考えていきたいです。

野木第二 中学校

野木二中では、今年も引き続き「ふくしのつどいのぎ2023」へのボランティア活動に参加しました。そして輝光祭に向けて「ビックアート」を制作・展示しました。今年はWBCで大活躍した「大谷翔平」です。その他に、12月には「人権講話」が実施され、大切な話を聞くことができました。

これからも様々な活動を通して、社会福祉について考えていきたいと思います。

ふくしのつどいのぎ2023ボランティア活動

3年 ^{はしづめ}橋詰 なつ

野木第二中学校では、SDGsに関わる活動に力を入れています。生徒会が中心となり、様々な活動を行ってきました。私にも何かできることはないかと考えているとき、先生からこのボランティア活動の話聞き参加を決めました。野木第二中学校3名と野木中学校3名の計6名で参加しました。

活動の内容は、子供が参加する射的の説明や景品の並べ替えなどです。実際に始めると、いろいろなことをやらなければならないとても大変でしたが、来てくれた子供たちが笑顔で参加してくれたので心から良かったと思いました。

今回のボランティア活動を通して、私たちにはできることがたくさんあることを知りました。地域の方々との交流など、自分がやれることから始めて、野木町をよりよくするために活動していきたいと思います。



3年 ^{たかはし}高橋 ^{あやね}彩寧

ビックアート

今年のビックアートのテーマは、世界の二刀流「大谷翔平選手」です。

この図柄を完成させるためには、六千個のアルミ缶が必要です。アルミ缶は昨年度使ったものと、今年新しく集めたものがあります。これは無駄がないように考えたものです。

今年は輝光祭の準備と重なり、三学年共に忙しい日々の中での活動となりました。また、初めての参加となった人が多く、覚えなければいけないことがたくさんありました。最初はみんなが協力して活動できるか心配でしたが、積極的に動いてくれたので無事に完成させることができました。

我が校の誇りであるビックアートを、ぜひ来年もみんな協力して作ってほしいと思います。ビックアートは校舎の壁に吊るしています。機会があればぜひご覧ください。



3年 ^{すずき}鈴木 ^{しょうた}翔太

人権講話

私たち野木二中生は、人権週間にあたって人権に関する文を読んで感想を書き、最後に人権講話に参加しました。

人権講話の内容はヤングケアラーについてでした。映像を通していろいろなことを学び、考えを深めることができました。講話後の振り返りでは、ヤングケアラーの深刻さや身近さが実感できました。私は、このような普段の学校生活では学ぶことが難しい人権について知ることはとても大切だと思っています。人権に対する理解が生まれれば、行動にもつながります。

すぐに解決するのが難しい人権の問題は、世界中であります。その問題は、時には人の命まで奪う可能性があります。今回の講話で聞いたヤングケアラーのように、周りが気づきにくいこともあります。このことを踏まえて、野木二中全体で、人権に関する問題に対して怖がらずに行動する力を身に付けていければと思います。



手話サークル「虹の会」

滝澤 智津子

今年度も町内の学校へ行き、子どもたちと手話を学習する機会がありました。

あいさつ、自分の名前、家族、学校名など自分たちで手を使って伝える体験をする。子どもの時から、福祉の学習の中で点字や手話に少しでも接することは、貴重な体験です。

耳の聞こえない人は手を使って会話をします。外国語を学ぶのと同じように手話という言葉に興味をもって欲しいと思います。

野木町には2つの手話サークルがあります。サークル以外でも手話を学んでいる方もいます。

いろいろな情報を利用して手話に興味をもって欲しい！そして、手を使って話しをしてほしいと思います。



手話サークル「野和の会」

活動日：毎週月曜日(午前10時～正午)
場 所：ホープ館(町老人福祉センター)
年会費：1,000円

手話サークル「虹の会」

活動日：毎週土曜日(午前10時～正午)
場 所：ホープ館(町老人福祉センター)
年会費：1,000円

点友会「のぎ」

中野 啓子



点友会「のぎ」

活動日：第2・4火曜日、第3金曜日
(午前10時～正午)
場 所：ホープ館(町老人福祉センター)
年会費：500円

点字は、フランスのルイ・ブライユ氏により考案され、それをもとに東京盲啞学校の教師石川倉次氏が日本語に直しました。それが1890年です。

今では、いろいろな所で点字が使われるようになりました。

町内の小・中学校でも点字体験学習が行われ、そのお手伝いをしています。点字の特徴や、打ち方、読み方、そして最も大切な視覚障がい者への接し方も話しています。声掛け、寄り添い、手助けをする。そんな思いやりの行動が出来る事を願っています。

月3回のホープ館での活動日は、パソコン点訳が中心です。点字に興味がある方は、ぜひ参加してみませんか、お待ちしております。

朗読の会「のぎく」

小林 和子

私たちは目の不自由な方のお役に立ちたいという思いから活動を始め、今年で30年目を迎えます。

活動の主な内容は町からの「広報」や「お知らせ」などの情報や動きなどを目で読むことが難しい方のために、私たちが読むことで耳から聞くという形のCDに録音してお届けしています。

また、作成したCDはどなたでも聞いていただけるよう、町の公共機関の窓口(図書館、役場、ホープ館)などに置いています。気軽にご利用頂けたら、うれしいです。

この活動を通して様々なことを体験し自分たちの学び、幸せにつながっています。あなたが声を出して読むことで、喜んでくれる人がたくさんいます。ぜひ一緒に参加してみませんか。



朗読の会「のぎく」

活動日：第1・2・3水曜日、第4金曜日
(午後1時30分～午後4時)
(第1水曜日は午前9時30分～)
場 所：ホープ館(町老人福祉センター)、
図書館 他
年会費：500円

共に学び、共に育む：福祉セミナー

傾聴とは敬聴なり 傾聴とは素直に、謙虚にきくこと！



野木町社会福祉協議会では、各校の福祉教育担当の先生方とボランティアの方々を交えて福祉セミナーを開催しました。

今回、心のバリアフリーを推進するために、お互いに認め合い肯定し合う“傾聴（敬聴）”について栃木県傾聴ボランティア連絡協議会会長の黒川貢氏にお話しいただきました。

なぜ“聴く”ことが大切なのかについて、黒川氏は、「人が健全に成長していくためには、自分の存在が受け入れられているという実感（存在認知）が必要です。そのため、相手の話を否定も批判もせずに、ありのままを傾聴（敬聴）することで、相手との話が深まりお互いの温かい信頼関係が築かれます。」と、お話しいただきました。

お話を伺った先生、ボランティアの方からは、「すぐにでも実践したいことがたくさんあったので、春のソナタなど学校や自分の家庭で実践したい。」などの感想をいただきました。

野木町社会福祉協議会では、『傾聴講座』はもちろん、その他福祉出前講座のご依頼を受け付けております。学校以外にも企業様や自治会、社会福祉法人などからのご依頼にも対応いたしますので、お気軽にお問合せ下さい。

＊ 春のソナタ ＊

～話す人の話に調子を合わせて言う大切な言葉～

- 春 温かく、明るく、やわらかく
- ソ そうなんだ～
- ナ なるほどね～
- タ たいへんだったね～

〈問合せ先〉野木町社会福祉協議会 TEL 57-3100

地域福祉新聞とは？

野木町社会福祉協議会の「地域福祉新聞」の取り組みは、平成 17 年度に栃木県社会福祉協議会から指定を受け始めた事業をきっかけに始まりました。

当時の協力校は野木中学校区の小中学校 4 校でしたが、平成 20 年度からは町内の小中学校 7 校の協力を得て、地域福祉新聞を発行しています。

地域福祉新聞は、各学校ごとに特色のある地域社会と連携した事業の取り組みや福祉について学んだ内容、児童・生徒さんたちの感想を記事として掲載しています。子どもたちがさまざまな体験をとおして得た素直な感想、発見を読んでいただき、今まで福祉にあまり関心がなかった方々にも福祉について考えるきっかけになっていただければと思っています。

『みんなで考える福祉教育』地域福祉新聞』のタイトルにもあるように、新聞を読んで子どもたちの学びを見守りつつ、どうしたら私たちのふだんの暮らしをよくしていくことが出来るかを、身近な人と一緒に考えてみてください。